

ジム・ロジャーズ、来日

林 康史

マスコミの報道でご存知の方も多いと思うが、今年1月6日から、ジム・ロジャーズ氏が来日していた。私も成田空港まで迎えに行ったが、今回のジムの来日も、大変ではあったが、いろいろと改めて教わることも多く、楽しくもあった。

空港では、NHKの撮影クルーが来ていて、カメラを見た何人かの人に「誰が来るのですか？」と聞かれた。「NHKだけしか来ていないから芸能人ではないね」と、状況判断のよい人もいた。判断のよいと悪いは、ちょっとしたことだが、いつの世でもあることだ。

また、ジムはペプシコーラが好きなのだが、空港で、畳1畳分もあるかのようなペプシコーラのノボリがある売店を見つけた。やはりアメリカ人には、ペプシがなければ始まらない、という人は多いのだろうなと思ったとともに、今まで、うかつにも全くそのノボリに気づかなかった自分にも驚いた。自分で思っているよりも視野が狭いのだと反省させられた。

今回、ジムの来日で感じたことについて記しておきたい。

人生で成功するには、知力や才能、発想等も大事なのだろうが、最後の最後は、タフネスさが成否を分けるような気がする。空港でも、「疲れたか？」との質問に、ジムは「消耗した」と答えていたが、カメラが回ると、新聞を3紙ほど買い、抹茶のソフトをなめるというエンターテイメントぶりだ。もちろん、喜ばせようという精神もあるのだろうが、なんといっても本質的にタフなのだ。講演会が始まる直前も、「少しだけ寝る。起きたらキャンディを食べるから用意しておいてくれ」と言って、普通の椅子を並べた上に横になり、すぐに眠りに落ちる。10分ほどで起き、キャンディを5個ばかり、口に抛りこみ、バリバリと噛む。スピーチに向けて、糖分を取っているのだ。セミナー後も、疲れているにもかかわらず、テレビのインタビューに答えている。確か、私よりも15歳年長だから、64歳のはずで、やはり驚異だ。娘はまだ2、3歳。滞在中も、ジム（これはジム・ロジャーズのジムではなく、トレーニングジム）での運動は欠かさない。

私も、せめて健康についてだけでも見習わねばと思った。

ジムを、また、ジムの相場のやり方を理解するためのキーワードは、思いつくままに上げると、自由、ハードワーク（ホームワーク）、インディペンデント・シンキング（独立した思考。自立的思考）、ビッグチェンジ、歴史、哲学、世界、等々であろう。これらの

キーワードをたどることで、ジムの人物像・相場への態度に近づくことができると考えているが、それは、いずれの機会に。

※ ※ ※ ※

ここでは、ジムと相場の関わりに関して、述べておきたい。

1月14日の土曜日の夜10時58分から始まる一時間の新番組の第一回めに、ジム・ロジャーズがとりあげられていたが、そこでの間違いについて。番組では、おもちゃ屋に行つて、何が売れているか、新しい投資先はないかを探っていたと紹介されていたが、そんなことはない。もともと彼は好奇心の塊のような人ではあるが、単に子供へのお土産を探しに行つたにすぎない。もちろん、行つたからには、好奇心がふつふつとわいて出て、頭の周りは「???」の洪水になるのではあるが、そうした描き方はあまりにステレオタイプすぎよう。

また、その番組のなかで、ネットで参加しているコメンターが、ジムを尊敬している若者に、将来的に何がしたいのか、と質問していた。それはそうではあるが、投資をすることとは直接的には何も関係がない。世の中によくある勘違いである。もうすこし本質に迫るコメントは期待するほうが間違いなのかもしれないけれど。ジムを尊敬するという若者にしても、そんな質問に答えられないでどうすると感じてしまった。

間違いといえば、日本経済新聞の記事も間違っていた。ジムの講演会を要約したものの中で、商品市場は株式市場と「相関はない」と書いていたが、なるほど、講演のなかでもそう言ったかもしれないが、ジムの真意は違う。商品市場は株式市場と「負の相関がある」というのがジムの主張なのである。本を読めば詳しく出ていることだから、記者としては失格だろう。事前の調査が甘すぎるのだある。

私の授業をとっている学生の意見も少し紹介したい。ジムの講演を聞いての感想だが、「現地に直接足を運ばなければ真実を知ることができないということ」を思ったという。私は、こう返事した。

「それはそういう面もあるけれども、それ以前にもしなければならぬことはたくさんあつて、それすらもちゃんとやっている人は少ないのです」と。

これも、とても大事な話だと思う。ジムのいう宿題とはそういうことなのである。現地に行くことばかりがやるべきことではない。そもそも、ジムは投資先を探すために旅行をしているのではなく、旅行をしている過程で投資先が見つかるにすぎないのだ。

2006.01.15

【プロフィール】

林康史（はやし やすし）

立正大学経済学部教授。

一橋大学大学院他で、短期売買・取引、テクニカル分析（システム・トレーディング）などを担当（非常勤）。東北財経大学（中国大連）客員教授・金融工程研究センター顧問。

所属学会等は以下。日本テクニカル・アナリスト協会、日本金融学会、金融法学会、法と経済学会、日本FP学会、法文化学会。

ファイナンシャル・プランニング技能士（二級）。

大阪生まれ。大阪大学法学部卒。社会人の傍ら、法学修士（東京大学）。

大学卒業後、クボタ、住友生命、大和投資信託、あおぞら銀行を経て、2005年より現職。

主な著書・訳書：

『W. D. ギャン著作集 I・II』（共訳）、『ギャンの相場理論』（編著）、『ラリー・ウィリアムズの相場で儲ける法』（共訳）、『はじめてのテクニカル分析』（編著）、『冒険投資家 ジム・ロジャーズ 世界大発見』（共訳）、『ジム・ロジャーズが語る 商品の時代』（共訳）、以上、日本経済新聞社。『相場としての外国為替』、『相場のこころ』（訳）、『欲望と幻想の市場～伝説の投机王リバモア』（訳）、『投資の心理学』（監訳）、以上、東洋経済新報社。『デイトレード』（監訳）、『基礎から学ぶデイトレード』、『マネーの公理』（監訳）、以上、日経BP社。『天才数学者、株にハマる』（共訳）ダイヤモンド社。『チャート分析入門』 かんき出版。『エリオット波動』（監修）日本証券新聞社。『金持ち父さんの投資ガイド 入門編・上級編』（共訳）筑摩書房。『図説 マネーの心理学』（編）三笠書房。『「夢」が実現する かんたん！ マネー・ノート』（編著）宝島社など、50冊を数える。※ 下線は、テクニカル分析に係るもの。